

H21 年 4 月 30 日

保存庫 AD 西野 保夫

「ビクター音と映像の保存庫」5 年間の軌跡（再発行）

1. はじめに

弊社の協力会社であった(株)湘南：稲葉社長（稲葉全彦氏）の長年のコレクションを寄贈頂き、不足分は社内に分散していた昭和期の商品を各部門より集めて平成 16 年 5 月 18 日に開設しております。

開設当初は蓄音機・真空管ラジオ・白黒テレビ・真空管ステレオ等の商品を中心として「昭和の音と映像の歴史館」らしい雰囲気演出する事ができましたが、年代を代表するビクターの主力機種欠品が目立ちました。

不足部を補う為平成 16 年 9 月「寿会ニュース」で寄贈のお願いをした事と噂を聞いた「ビクター製品愛好者」の支援を受け「蓄音機」や「古い HI-FI 電蓄等」の寄贈もあって現在は各ジャンルの商品が年代順に展示出来るまでに発展しております。

当初は社内の研修用としてスタートいたしましたが 2 年後は行政関連の各種団体の見学も増加し、「資料館」として広く認知されるレベルになりました。「音響文化」と「音響技術」「映像技術」の推移を後世に伝える役割が出来るレベルになりましたが、企業環境の問題もあり、惜しまれながら本年 4 月 13 日で閉館となりました。この 5 年間の記録を個人的なレベルですが纏めてみました。

2. 来館者実態（毎月火曜と金曜に開館）

年 度	期 間	稼動日	来館者 総数 (A)	内→ 団 体 客			団体比率 (B/A)
				新入社員数	その他団体	計 (B)	
16 年	H16/5～H17/3	88 日	540 人	32 人	118 人	150 人	27%
17 年	H17/4～H18/3	97 日	501 人	67 人	71 人	138 人	27%
18 年	H18/4～H19/3	96 日	519 人	56 人	274 人	330 人	63%
19 年	H19/4～H20/3	100 日	332 人	52 人	100 人	152 人	46%
20 年	H20/4～H21/3	97 日	292 人	—	105 人	105 人	36%
21 年	H21/4/8 終了	5 日	47 人	43 人	—	—	91%
計		483 日	2,189 人	250 人	668 人	918 人	42%

●稼動日 483 日 ●来館者 2,189 人 ●人件費 約 430 万円（光熱費不明）

●来館者コスト約 2,000 円/人 ●稼動日当たりの来館数 4.5 人/日

コスト比べ来館者が少ないのは、社員研修と関連企業の学習の場として、スターし一般客には開放に対応していない事も 1 因です。

3. 行政関係団体又は社内大口の来館者

	団 体 名	来館者	備 考
H18年06月	連合静岡地区協議会	40名	ビクターとの会議関連
H18年06月	環境保全協議会	20名	ビクターとの会議関連
H18年08月	大和産業振興課一行	07名	歴史学習の一環で見学
H18年10月	京浜地区 QC サークル	104名	ビクターとの会議関連
H18年11月	大和市観光協会メンバー	27名	歴史学習の一環で見学
H19年02月	大和市つきみの地区社協	27名	歴史学習の一環で見学
H19年06月	スズキ自動車労働組合	18名	ビクターとの会議関連
H20年01月	大和市観光協会メンバー	25名	歴史学習の一環で見学
H20年07月	神奈川県教育委員会	30名	歴史学習の一環で見学
H20年08月	神奈川県安全部会	11名	ビクターとの会議関連
H21年03月	ビクター寿会・見納めの会	54名	大和工場見納めの特別来館

来館者の声で「蓄音機館」や「オルゴール館」は全国レベルで数箇所存在しているが、ビクターのような「蓄音機」から「ステレオ」の歴史推移と「テレビ」の進化が解り易く展示している資料館は珍しく貴重な存在であるとの懐かしさを超えた評価がありました。又中・高生に対して学習の場として開放願いたいとの大和市民の声も後半になりありました。

4. 出前展示と貸出しの例（展示商品をイベントに貸出し）

年・月	貸 出 先	貸出	動員客	備 考
H18年12月～1月	浜松博物館・高柳展	10台	未確認	s 31年代テレビ他
H19年11月3日～4日	大和産業フェア	30台	3,200名	商工会議所主催
H19年11月23日	甲府営業所合展	5台	100名	売上 338万円
H20年3月1日～2日	ビデオフェスティバル	10台	—	ビデオムービー
H20年9月13日～14日	テクノウエング合展	23台	652名	首都圏支店主催
H20年11月8日～9日	大和産業フェア	50台	4,275名	商工会議所主催

各種イベントにおける客寄パンダの役割として蓄音機や・白黒テレビが予想以上の人気

があり、今後も集客の手段として利用度は高いと想定されます。

イベントを通して **8000 人**のお客様にビクターの**信頼性**を訴求出来と思われま

5. ドラマ作りの小道具貸出し

年・月	貸 出 先	貸出	商品	備 考
H20 年 05 月 13 日	ホリプロ系京映アーツ	12 台	カメラ他	和田あき子物語製作
H20 年 07 月 25 日	フジテレビ系クレエイト	2 台	白黒 TV	昭和 44 年頃の小道具
H20 年 08 月 08 日	TBS 系ザイン社	1 台	蓄音機	戦前の時代考証

ドラマ作りの小道具としてニーズも高く又「貸出し専門業者」も存在しているようです。

6. 開館以降の寄贈品

年 度	蓄音機・テレビ・ラジオ・ ビデオ・業務機器	SP レコード	LP レコード	寄贈で増加分
16 年度	70 点	58 枚	10 枚	ゼンマイ蓄音機：9 台
17 年度	82 点	155 枚	170 枚	一体型ステレオ：7 台
18 年度	42 点		80 枚	セパレート ST：4 台
19 年度	37 点	112 枚		真空管式電蓄：2 台
20 年度	10 点		5 枚	白黒テレビ等：13 台
計	241 点	324 枚	265 枚	真空管ラジオ：4 台 ムービー：20 台

16 年 9 月「寿会ニュース」や「社内通達文」で不足商品の寄贈のお願いをした事もあって玉石混交もありますが 241 点の商品の中には貴重な商品が集まり、特に蓄音機と一体型ステレオが充実しました。しかし、バックヤードも含めて約 550 点の総在庫になり処分出来ずに今日に至りました。

7. 年度別来館者の特徴と出来事

● 平成 16 年度は・・・

物珍ずらしさもあり、社内関係者や会議後の来館者が主体で開館日は毎回、5～6 人と平均しての来館者があり又会社関係の団体が目立ちました。

● 平成 17 年度は・・・

稼働日 97 日で来館者受け入れ 73 日で（来館者ゼロが 24 日）で稼働率は **75 パーセント**と前年に近い稼働状況でした。（12 月 23 日第二保存庫改装完了）

● 平成 18 年度は・・・

①稼働日 96 日の中で来館者受け入れは 60 日で稼働率は **62 パーセント**と来館者ゼロの日が増加しました。一方大口団体の来館が増加して社内来館者の減少をカバー出来ましたが新しい来館者の促進が課題となりました。

②平成 18 年 11 月 5 日より修理担当で「石垣 AD」がメンバーに加わり、それに一体型ステレオが 11 台 **10 台**が動作するようになり又年内で白黒テレビ 34 台の中で **30 の白黒テレビ**も映る様になり、内容は一気に充実しています。

- ③商品の充実に呼応して **H19 年 1 月上旬**に大幅な改装を戴き「**歴史館**」らしい内容になりました。(藤城さんがコーディネート)
- ④問合わせ対応で「写真付きカタログ」の作成を矢部主査より要請を受けて写真撮影に入る。(H19 年 3 月 28 日オーディオ編を CD-R に焼いて届ける)
- ⑤H19 年 3 月 2 日矢部主査と西野が立会で不良在庫品約 30 点廃棄する

●平成 19 年度は・・・

- ①社内の来館は一巡した事もあり稼動日で来館者ゼロ日が **50** パーセントになり、一方商品の充実に合わせ大和商工会議所の要請で(H19・11 月)大和産業フェアに出前展示して大和市民 **3200 名**に主力商品をご覧頂く、これでビクターの大和工場の所在が市民に PR されてイメージ UP に大きく貢献できました。
- ②「H19 年 11 月甲府営業所合展」「H20 年 3 月千葉営業所合展」「H20 年 3 月ビデオフェスティバル」などの出前・貸出し等で販売促進活動も展開しました。

●平成 20 年度は・・・

- ①稼動日 **97** 日で **46** 日が来館ゼロ日と非常に厳しい 1 年間でした。
- ②なお、これをカバーする為に「H20 年 4 月ひばりプロ」「H20 年 6 月ホリプロ」「H20 年 7 月関西支店の合展」「H20 年 9 月首都圏支店合展」に貸し出し実施。
- ③「大和産業フェア」では前年の倍の展示スペースを確保し 2 日間で **4275 名**来場を頂き又甘利大臣も熱心に見学頂きました。
- ④H20 年 7 月に「保存庫展示品写真カタログ」100 冊の印刷完了。
- ⑤H20 年 5 月 16 日「保存庫 4 周年記念懇親会」を実施
(稲葉夫妻・郷・製技長・藤城・佐々木・平塚・佐々木・坂口・石川・佐藤・荒木・石垣・西野の 14 名参加)

●平成 21 年度は・・・

- ①4 月 6 日(月)は新入社員の見学がありその後商品移動の準備の為に **4 月 13 日**で閉館となる。4 月 26 日の移動日に向けて梱包作業にはいりました。
- ②「保存庫展示品写真カタログを」の追補版(ピアノ・ビクトロン)を 4 月 6 日に作成しました。

●5 年間の主な成果

- ①平成 16 年 5 月スタート時は「稲葉様の寄贈品：174 点」と「社内より移動商品：50 点」と合計 **224 点**でスタートしましたが 5 年間の中で新たに **241 点**の中で貴重な商品が寄贈され、展示内容を大幅に入れ換えて、現在は各分野で**時系列の展示**を可能にしました。
- ②平成 18 年 12 月末で保存庫の展示改装と第 2 保存庫にシアタールーム完成
- ③展示商品の **70%以上**が動作するようになりました。
- ④資料の整理⇒「お客様用カタログ S45 年～H3 年ファイリング」の完了
「セールスマンカタログ S47 年～H5 年ファイリング」の完了
「古い写真アルバム昭和 34 年～S40 頃の整理」
「SP レコードのジャケット作り約 200 枚」
- ⑤5 年間の運営で出前を含め約 **1 万人**のお客様にご覧頂き、ビクターの歴史と技

術に対するチャレンジ精神を訴求する事ができ商品の信頼性をPRできた。

8. 当館の自慢商品（貸し出しに最適）



ビクタートーキング
マシンの初期モデル
1902 年製



ビクタートーキング
マシンのビクトロラ
1908 年製



ビクタートーキング
マシンの超高級品
1915 年製



RCA ビクター指導
で生まれた電蓄
1937 年製



ビクターの先進技術
反射型テレビ
1939 年製



高柳先生の指導で
製品化 14 型テレビ
1956 年製



東洋一の大和工場で
生まれた 661 モデル
1964 年製



ビデオムービー初号機



VHS ビデオの初号機
HR-3300
2007 年 IEEE マイルストーン認定
を受ける
VHS ビデオ累計生産台数
世界市場で 9 億台以上を超える

．．．．．MEMO．．．

保存庫の管理部門

坂口（総長）⇒（HD コ戦）総 M・・・（平成 16 年 5 月～平成 21 年 4 月）

矢部（総主査）・・・・・・・・・・・・（平成 16 年 5 月～平成 19 年 9 月）

石川（大総主席）・・・・・・・・・・・・（平成 19 年 10 月～平成 21 年 4 月）

平塚（総主幹）⇒（CS 本主幹）・・・・・・・・（平成 16 年 5 月～平成 19 年 7 月）

藤城（V D S 主席）・・・・・・・・・・・・（平成 16 年 5 月～平成 19 年 9 月）

上記管理部門の指示のもとに 4 人の AD で運営をいたしました。

＜ 保存庫の担当者（アドバイザー）在任期間 ＞

① 佐々木一三(CS 本) (H16/5~H16/9) : : ②渡辺 信久 (テクノ B) (H16/10~H18/6)

③荒木 博 (ビ品保) (H18/7~H20/9) : : ④石垣 秀雄 (不動産) (H18/11~H21/4)

⑤臼杵 健介 (VBS) (H16/5~H21/4) : : ⑥佐藤 滋樹 (ビ購買) (H16/5~H21/4)

⑦西野 保夫 (東京客セ) (H16/5~H21/4)

歴史資料館の役割は過去の文化や、その時に開花した技術を次の世代に伝える事です。
蓄音機から電気蓄音機そしてステレオ装置へ進化した過程の中で各時代における新技術
を開発し文化生活の向上に貢献し、更に電器業界の中で業界 7～8 位の弱小メーカーと
揶揄されながら VHS ビデオを開発により世界の方式として規格統一を図り 2006 年
(H18 年) 世界市場では生産累計台数で 9 億台を達成しました。

今やそれも過去の栄光かもしれませんが、それを証明できるのはこれ等の商品かと思
いますので後世に残せればと願う次第です。

以上

配布先 : (HD コ戦)総坂口マネージャー (大総) 石川主席